クリニカル看護ケア開発ユニット

有効性が確認された看護方法を臨床現場に届け、実装を推進します
⇒看護エビデンスを使おう！

概要

高度先進医療や在院日数の短縮化により、安全で質の高い看護が求められています。臨床の経験知を発見し、研究でエビデンスを創出するとともに、有効性が示された介入方法や看護について、臨床現場で使えるように社会実装の橋渡しをすることを目指しています。

ユニットリーダー

医学研究院保健学部門･教授
藤田君支 （Kimie Fujita）

Profile

九州大学医療技術短期大学部を卒業後、大学病院で看護師勤務を経て、佐賀医科大学で修士、大阪大学で博士課程（看護学）を修了し、2014年から現職です。現在は大学院生と共に、高度医療を受ける成人・高齢者を対象に、重症化予防やQOLの改善に向けて診療録の解析や評価指標の開発など臨床研究に取り組んでいます。

主な研究課題

患者報告式アウトカム尺度（PROM）開発に関する研究
周術期口腔ケアと感染制御効果の検討
がん・肝移植・人工関節患者の身体活動とQOL
多職種連携による高血圧症予防に関する研究
高血圧症予防のための保健介入プログラムの開発

Q このユニットの強味を教えてください

大学病院などで実践経験のある研究者が、医療現場で抱いた疑問や看護ケアの改善につながる研究課題を探求しています。システマティックレビューで既存の研究課題の成果を確認して、医療を受ける人々のQOL向上や医療の質を評価をするための研究を行ってます。

Q このユニットの成果が社会実装された際の未来社会、臨床へのインパクトを教えてください。

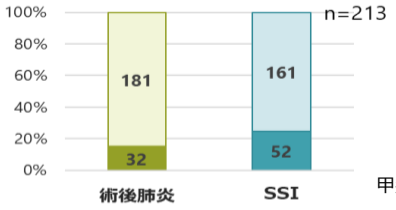
PROM開発は患者主体の医療の評価や治療方法の選択を支援でき、専門性の高い多職種による介入プログラムやケアの開発は慢性疾患や手術後の合併症・重症化予防に有効です。

頭頸部がんの周術期口腔ケアと感染制御

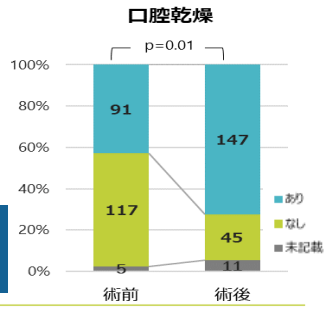
頭頸部がんは口腔内細菌による肺炎や手術部位感染（SSI）が発症しやすく、死亡率の増加や医療費が増大
⇒周術期の口腔衛生状態の改善が術後感染症の予防に重要

術後感染症の発症率

15.0% **24.4%**



術前の口腔内乾燥の改善が術後肺炎を予防できる可能性がある



臨床的要因	術後肺炎		
	オッズ比	95% CI	P値
出血量[a]	1.45	1.00-2.09	0.048
術前口腔乾燥[b]	2.37	1.04-5.37	0.039
糖尿病[c]	2.53	1.02-6.24	0.045

甲斐 梓，周術期口腔ケアによる頭頸部癌の術後感染症に対する予防効果，2023年度修士論文

問い合わせ
藤田君支 研究室
Email fujita.kimie.874@m.kyushu-u.ac.jp